

まえがき

子育てに対する不安や悩みなどを抱え孤立して子育てしている親が増え、その親たちが子育ての悩みや育児について気軽に、身近に相談できる人や場所などを見つけることがなかなか難しい状況にあります。そこで、あしたの日本を創る協会では、地域のいろいろな状況や事情などを踏まえながら、地域の人たちによる子育て支援活動を全国的に広めていく必要があると考えています。

こうした子育て支援に取り組む地域活動を広めるために、あしたの日本を創る協会では、独立行政法人福祉医療機構から助成を受け、子育て支援に取り組んでいる先進的活動事例の調査を行うとともに、事例や調査をもとにした「子育て支援に取り組む地域活動推進シンポジウム」を、群馬県前橋市、三重県鈴鹿市、大阪市、福岡市、大分県由布市の全国5カ所で開きました。この報告書はその記録をまとめたものです。

このシンポジウムの開催に当たっては、企画委員会（委員長・石井久雄明治学院大学助教授）を立ち上げ、企画委員のみなさんには各会場のシンポジウムの企画、先進的活動事例の選定・調査、この報告書の作成を短い期間内でお願ひしました。企画委員には、忙しい中、開催地での打ち合わせ、現地事例調査と東奔西走していただきました。ひとえに企画委員のご尽力で事例調査と一連のシンポジウムを開くことができ、報告書にまとめることができました。お礼を申し上げます。

また各会場でご協力いただいた地元の子育て支援団体や生活学校のみなさん、現地事例調査にご協力いただいたみなさん、シンポジウムの講師、事例発表者、パネリストを引き受けていただいたみなさんに、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

5会場で開いたシンポジウムでは、地域における住民参加の子育て活動を活発にするために、子育て支援に取り組んでいる先進的活動事例をもとに、学識経験者、教育・保育関係者を交えて、地域における子育て支援活動の重要性や進め方について話し合いました。

群馬会場では、シニアの参加を得て、子育て支援の輪にシニアはどのように関わっていけばいいのかを話し合いました。鈴鹿会場では「地域ぐるみで子育て支援」をテーマに、横浜市神奈川区の「すくすくかめっ子」事業と名古屋市天白区の「天白子ネット」の活動に学びました。由布会場では、地域ぐるみの子育て支援活動の重要性について考え、大阪会場は子どもの食生活を取り上げ、福岡会場は子どもの「食」「睡眠」「遊び」「おじさん・おばさん」を取り上げ、話し合いました。

三重県鈴鹿市では、このシンポジウムが契機となって、子育て情報紙が発行されることになり、群馬県でも「育児への父親の参加」をテーマに関係者と話し合いたいという動きが出ています。由布会場でも「各学校等で講演をお願いしたい」内容だったとの声をいただきました。

あしたの日本を創る協会では、乳幼児を抱えている親に対しての子育て支援の重要性が増していることから、今後とも地域ぐるみで子育て支援に取り組む活発な地域活動を全国に広めたいと考えています。

この報告書は、第1部；シンポジウム報告編，第2部；子育て支援活動事例編，付録；シンポジウム当日の資料からなっています。活動事例には実際に地域で取り組まれている子育て支援活動の知恵や工夫が紹介されています。この報告書は当協会のホームページ（<http://www.ashita.or.jp>）でも閲覧することができます。この報告書が、地域において地域住民や地域集団が子育て支援に取り組む活動の参考にしていただければ幸いです。

なお企画委員は下記のみなさんをお願いしました。

子育て支援に取り組む地域活動推進シンポジウム等企画委員会

委員長 石井 久雄・明治学院大学助教授

委員 渡辺 恵 ・明治学院大学非常勤講師

委員 末富 真弓・前NPO法人ままとーん事務局長（茨城県つくば市）

委員 遠藤 宏美・筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科

委員 丹治 恭子・筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科

平成18年3月

財団法人あしたの日本を創る協会